

C-21 南蛮服飾による立衿の影響について

埼玉大教育 丹野 郁 天専女大家政 石井とめ子

〇共立女大家政 景平一恵

目的 室町時代から桃山時代にかけての南蛮人の到来が、日本の風俗に大きな影響を与えたことは、各地に珍蔵されている服飾遺品によってもうかぞい知れる。先進文化国である西政諸国、とりわけ当時その先端をいっていたポルトガル、スペインの人々の服装は、日本人に驚歎を与えたが、西政服の特徴をどのようにとり入れたか、遺品を通して特に衿の部分について考察を試み、その後の日本衣服の発展にどう寄与したかを究明したい。

方法 熊本市本妙寺所蔵の伝加藤清正着用のポールポアンは当時の西政服そのまゝのものであり、これを土台として伝細川忠興着用のも足下、伝上杉謙信着用のマント、貝足下伝徳川頼宣着用のも足下、陣羽織、伝徳川家宣着用のも足下等、ポールポアンの立衿の影響をうけたと認められる遺品を厳選して、その寸法、形状、仕立て方、裁ち方を上記のポールポアンと比較し、ポルトガルでの遺品調査との比較において考察し、更に復元してその機能性と着装の状態などを検討した。・・・・・・

結果 日本人が西政服の特徴をとり入れる時、武將運か武張った状態を示す為立衿をつけていたこと、又武装の下着として首を保護し、又衛生的であったことか、遺品の調査復元、着装状態、文献資料などがう明らかになった。更に立衿はその後の和服の衿に変化をもたらし、折衿、衿付コート、羽織等に直接、間接に影響していったと思われる。